ベドロ・レイエスによる複数の場　「使用される芸術」、サナトリウム、人形劇、そして武装解除

<table>
<thead>
<tr>
<th>著者</th>
<th>石谷 治寛</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>心の危機と臨床の知</td>
</tr>
<tr>
<td>巻</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>63-90</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>2014年2月28日</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.14990/00002773">http://doi.org/10.14990/00002773</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
ベドロ・レイエスによる複数の場

「使用される芸術」＝サナトリウム・人形劇、そして武装解除

石谷 治寛

現代芸術において、「セラピストとしての芸術家」と名付けられるような芸術家が存在が目立ってきているように思われる。彼らは、臨床心理学の専門家ではないにしろ、ときには専門家と共同作業を行いつつ、芸術のセラピーチックな課題を批評的に吟味し、進化させながら、現代的な創作活動を行なっていっている。現在、コミュニティーの再活性化を課題に、ワークショップや参加型のアートが大きな広がりを見せており、芸術家が向けに壁やバロックな形を制作したり、パフォーマンスを見せたり、美術館でキュレーションを含たりするだけではなく、創意に富んだアートプロジェクトの立案が次々と行われている。ミキシング・アート・セラピーの分野でも、個別の臨床を目的とするだけでなく、グループセラピーの流れをもってアート・イ

ナゼーションを目指す活動も盛んになってきている。芸術家の役割は、社会やコミュニティー活動の設計者まで広がっており、これら、セラピーという観点を加えながら、現代芸術の方法を検証することができるだろう。

医学神経学のベドロ・レイエス「九七二年」の参加型のアートプロジェクトは、彼自身のシェアラルト療法や心理療法の観点を相まって、特筆すべき実践例である。レイエスのアートへ関心を相まって、形を描くという形態が描かれている。二〇〇〇年代から世界的に活躍した彼の作品やプロジェクトの内容や作家のレクチャーは、ウェブサイトやブログで公開され日々更新されている。参加芸術の研究者クレア・シェイフが指摘するように、世界中で取り組みが行われている参加型の活動を全て体験して報告するこ

とは不可能である。それゆえ、本稿では主にウェブサイトの情報ソースを参照にしながら、以下の四つのテーマに整理し

| 投稿・論文 | ペドロ・レイエスによる複数の場 | 使用される芸術 | サナトリウム・人形劇、そして武装解除 | 石谷 治寛 | 現代芸術において、「セラピストとしての芸術家」と名付けられるような芸術家が存在が目立ってきているように思われる。彼らは、臨床心理学の専門家ではないにしろ、ときには専門家と共同作業を行いつつ、芸術のセラピーチックな課題を批評的に吟味し、進化させながら、現代的な創作活動を行なっていっている。現在、コミュニティーの再活性化を課題に、ワークショップや参加型のアートが大きな広がりを見せており、芸術家が向けに壁やバロックな形を制作したり、パフォーマンスを見せたり、美術館でキュレーションを含たりするだけではなく、創意に富んだアート・プロジェクトの立案が次々と行われている。ミキシング・アート・セラピーの分野でも、個別の臨床を目的とするだけでなく、グループセラピーの流れをもってアート・イ |
1 【使用される芸術】

形態を用いた個と集団の相互作用

建築家として教育を受けたベドロ・レイエスの芸術の方法論をもとにも説明する作品として『脊椎骨』（図1）が挙げられる。この椅子は、異なる配置によって七通りの座り方がなれるよう、この椅子は、異なる配置によって七通りの座り方ができる椅子になっている。これらは組み合わせて用いられる。

図1 《脊椎骨》（2003年、ファイバーグラスとアクリル、ウェネチア・ビエンナーレ）
図2 《猿の扉掛け》2012年、レイバー・ギャラリー、メキシコ市

図3 《心のフォーラム》2002年、彩色された木の構造、印刷物、スライド映写機、サウスロン ドン・ギャラリー
図4 《ゴルディアスの結び目》2007年。ファイバーグラスと鉄

される芸術は、このように形態論的な変形や遊びによって、個人から集団への相互作用が働くわけである。またこのメンバーは、ゴルディアスの結び目の解けて、新たな問題解決を模索する空間を創りだす装置となる。

図5 《カプランクリーニの壺》2007年。ビニール繊維で編まれたステンレス鋼の枠組み

配置（接合）、Capillary（毛細管）。これらの単語は、建築物の形態からの变化と、動物や植物の関係性や合体を表現する言葉まで、さまざまな含意をもつ。カプランクリーニの壺は、オートポイエーショーンの概念を思い起こさせる。構造的カップリングと、最適化が行われるプロセスである。有機体系をその環境においてダイナミックなシステムとして維持するという概念を、造ることを可能にする。この維持は、有機体系と環境との両立性を持続していこうに見えるだろう。その両立性こそ、適応と呼
図6 《化合構造物のキャピネット》2002年

図7 《ニューロンのビニュータ》2003年、ダンボーロ、ストロボ光、集団活動

祭りのさいに天井から吊り下げるビニュータの光が観客を包み込む。
想郷のようでもあり、実際に

内面で遊ぶことのできる道具

でもある。このピラミッドの

形態は、アストラル文明の遺

跡を連想させるかもしれない。

また《地震シミュレーター》

では、参加者は積み

木を都市の形に作り、完

成写真を展示室に貼ることが

できる。そしてスイッチを押

すと地震が起こされ、その都

市は崩される。参加者の数だ

けさまざまな形態の都市が構

想される。建築と崩壊が繰り返

されるゲームとなる。不可避

的な地震の経験を再体験して

そのショックを鉄化していく

という意味で、この一連の行

為はエクスピリエンサー療法を

思わせる。これらのイベント

でレイエスが示唆する主題

建築物の不安定さ、その

大量三角形のビルを再建するプランを想像上の建築モデルにつ

る。レイエスは、二〇〇二年に、トラボルコの都市の巨

大なるトラウマ的な記憶に関連して考えることが重要である

と述べている。

レイエスの代わりに庭園を作ることを構想していたトラボルコの都市は、一九八七年に歴史上最初

の核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻まられている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻ま

られている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻ま

されている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻ま

されている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻ま

されている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻ま

されている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻ま

されている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻ま

されている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻ま

されている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締结されたことでその名が歴史に刻ま

られている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締结されたことでその名が歴史に刻ま

されている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻ま

られている。このプラン

にはオフィスの代わりに庭園を作ることを構想していた。レイエスの代わりに庭園を作ることを構

想していたトラボルコの都市は、一九八七年に核兵器戦争条約が締結されたことでその名が歴史に刻ま
アーティストは、子供たちを瞑想へと誘導しながら、はじめて地球に訪れたエイリアンになってもらう。エイリアンの意義は次のように説明される。「エイリアン・リポートは、空想が、逃避するためのゲームである。この奇境によって、参加者が新鮮な日で世界を見つめ、努力しなくても深い哲学的な会話に取り組むことができる。移民の子どもたちの置かれた都市環境のなかで、エイリアンの物語は語られている。ウィーンで精神医学を学んだモレノの社会劇に関する著作が彼の創作のインスピレーションになっていることをインタビューで語っている。ウィーンで精神医学を学んだモレノの社会劇に関する著作が彼の創作のインスピレーションになっていることをインタビューで語っている。ウィーンで精神医学を学んだモレノの社会劇に関する著作が彼の創作のインスピレーションになっていることをインタビューで語っている。ウィーンで精神医学を学んだモレノの社会劇に関する著作が彼の創作のインスピレーションになっていることをインタビューで語っている。
論文

社会劇（ソノメトリ）の理論を繰り上げ、米国では行動に重きを置くプラグマテイズムや行動主義が発展していたこともあって、広く受け入れられたとされる。心理学の考えを取り入れているゲシュタルト療法についてはフレデリック・S・パールスもまた、過去から現在まで引き続いて問題に注意を集め、『今ここ』で生き生きと再体験することができるが、治療的になることを論じている。『ファンタジー』、演技、行為の三段階にわたる自己理解の経験を通して自己理解を醸成することができる。

そのとき心理療法は、退行現象、エディプス的葛藤、心の外傷、体験などの過去を発掘することではない、心理療法という現象学的場における『今ここ』の経験となる。この心理療法における生の体験を通じて、クライエントは思考、感情、行為を統合し、過去を掘り起こすように、人間と人間を取り巻いている環境を含む、現在の場の全体（ホリスティックな）関係性のなかで、人間の行動に注意を向けることに主眼が置かれていると考えられる。

レイエスによるのは、クライエントは自分の知っていることを夢に、友人と他の参加者も共同で夢の役割を演じながら物語を撮影していく。これを夢にするユーモアの夢を題材に、友人たちが演じる映画に受け入れる。レイエスのプロジェクト『夢の消化』（二〇〇五年、図16）にある。このスタジオは、ロナルド・R・レイインに影響を与え、心の問題を抱える人々が、健康の回復を目的に、開放病棟でセラピーを受け、芸術家のレジデンスの前に、参加者は、街の住人たちが演じる映画を制作するというものである。レイエスのワークショップでは、二十分の短編の制作される。最終的にこのワークショップでは、ゲシュタルト療法での夢の扱いと似た手法が使われている。パールスは、夢から連想と説明を広げるということではなく、夢を明確にさせ、自らの感情や情動、しぶきのちっとした変化などを

図16 《夢の消化》2005年、集団活動。25分のビデオ、木とカーペットの建造物、プリストル、イギリス、スタジオ・アップステアスとの共同

72
に注意を払うことによって、夢の内容やクライエントの行動と
の心身相関を統合する必要があると論じた。《夢の中での物とし
て登場する人との存在、そして夢の中においてする夢や人物や
事象や雰囲気はみんな、我々の断片化された自己である。》
シェルター療法で我々がやりたいことは、このようにパラパラ
に分割され、自分のものとして所有されている夢を、疎外された
自己を統合し、もう一度丸ごと一人のパーソナリティの持ち主
を自分で演じたたり、人の夢の登場人物を演じ体験を共有したり
することで、地域住民での心理的な相互交流が生まれ、それが
お互いに補助自派として働きながら、それぞれ自己を再認
することが可能となる。
このような参加型のセラピーはワークショップを積極的に
提示するアーティストが個展を行い、あるような空間
を分前にするプランを相談して、独自に開発されたセラピーのう
ち、三つのセラピーを組織してセッションを受けることができ
る。それがさまざまな都市住民の悩みに対応したパーソナリティ
的なさまざまな都市住民の悩みに対応したパーソナリティ
のものになっている。《サントリウム》（図17）に呼ばれるプロジェクト
を統合し、シェルター療法、シェイマニズム、コラージュ、瞑想などに
するプロセスが、その最初の取組みとしてレイ
ヨークの都市の騒音を緩和す
ることでアーティストはどの
よるプロジェクトのなかで、
都市の疲れを癒すために観客は十
五ドルの入場料を払ってこのサントリウムに入場し、セラピ
ストにおける効果が確認されている。}

図17《サントリウム》2011年、集団活動、インス
トラクション、「スタイルスポッティング」
グッゲンハイム美術館、ニューヨーク

～プロセクトであった。ニューヨー
時のアートセラピーの施設をブルックリンの商業街に開設す
哲学や言語や数学など抽象的な思考力を働かせるものまでさまざまな。

このように、サナトリウムで行われるセラピー自体は、実際は既存のアートセラピーからも遠く、むしろ遊びや冗談に近いものであり、精神療法のパドティになっているという点がいかにもレイスースボガだっただけである。

レイエス自身もそのセッションの効果はブラシポダーと言っている。とはいえこのものの、臨床心理学の博士とアーティストとの協働で生み出された独自のセラピーも定感や注意の集中の力の増進に資する治療的な効果のエビデンスを主張している 

これセッションのなかにはレイエスが过去に行っている作品も含まれているので、彼のこれまでの関心領域を総合的に提示する回顧展のような試みにもなっている。

本稿では特に、箱庭におちゃを配置する（仮想の生涯の美術館）図19、図20を取上げておきたい。これは、箱庭療法の個々のセッションを総合的に提示する回顧展のような試みにもなっている。この箱の空間構成をみると、右列（①）から⑦までに区分けされた空

家族や家系に関わるもの、中列（⑧〜⑩）は青年期までの成長家族や家系に関わるもの、中列（⑧〜⑩）は青年期までの成長
臨床心理学者ドナルド・ウィニコットの移動現象という概念を

『仮想の人生の美術館』2011年、インタラ

リアの空間（11）はオフィ

スのように直線的な通路が

自由に区切られており、反

対に、個人生活の空間（12）

それぞれの空間の性質の違

いが幾何学的形態によって

明示されている。このよう

に形態論的な観点で眺め

ば、家系図は樹木のような

形をしており、また成長の

諸段階は顕著のようにも見

える。さらに、この図表で

現在のあだに位置してい

る人について、この創造

的な空間である。これは成

人の創造的な空間と考え

られ、ここに趣味や芸術活

動などが含まれるだろう。

興味深いのは、通路が構

築庭が『美術館』と名付け

られていることである。つまり、サナトリウムのなかの個人美術館のなか

べント・サナトリウムは、ブルックリンという街の全体にとっての潜在空間を発見する場になる。その意味で、既成品を配置する

でない、という表現が適用され、ひらがえってレイエスが創り出したイ

ペント・サナトリウムは、ブルックリンという街の全体にとっての潜在空間が含まれ、ひらがえってレイエスが創り出したイ

実のところ、このイベントの施設は、ブルックリンのダウン

タウンに位置し、ホームセンターだった場所が改装されたもの

であった。それゆえに、かつての物質的な豊かさを享受する消

費文化に変わって、軽い心のケアやセラピーが、ホームセ

ントンで売られるような商品になる。美術館の展示物やイベント

の要素にさえならないつつあるのだと思えることもできるだろう。

レイエスは美術館の役割の変化を「冷蔵庫からオーヴンに」と

いう比喩で説明している（20）。つまり、かつての美術館は完

壁に制御された環境で作品を保存することに重点が置かれてい
投 稿 論 文

たのに対し（冷蔵庫）、いまの美術館、
収蔵庫の枠を超えても、
設立される革新的なものを生み出すことに
ある。美術館は新たな
現実のインタラクター（起業支援、
施設の現代的変
療施設とは、
切り離すことのできないものとして関連づけ
られているのだ。

ギャラリーで、ディミアン・ハーストが再現された
ギャラリーで、ディミアン・ハーストの『ファーマシー・カフェ』が
再現されたことは記憶に新しい（図21参照）。デミアン・ハース
トは、一九八〇年代末から、医療用の薬剤を「驚異の部屋」
を用いて研究し、一九九八年
には、それらを飾るため
のカフェ・バーをフィーディ
ング・レベルに開設し、こ
れらの陳列棚

利用をクールに見る大衆文化に対するアイロニカルな眼差し
は明白である。その後カフェを飾ったこの一連のアート自体がオーエ
クションで千百万円の値がついて、再展示される運びと

《無感動》、《一七歳》などがつくれられており、ここで薬物の濫
用をクールに見る大衆文化に対するアイロニカルな眼差し
は明白である。その後カフェを飾ったこの一連のアート自体がオーエ
クションで千百万円の値がついて、再展示される運びと

図21 デミアン・ハースト《ファーマシー》1989年－
人形劇《ベイビー・マルクス》の教育学

次に、ゲシュタルト療法や現在の経済状況をふまえ、レイエスが行う人形劇《ベイビー・マルクス》（図23）について考察する。教育学としての该作品は、人形たちが展開される人形たちが舞台を博した。その内容は次のようにまとめられている。ただ、有志が撮影されたものである。マルクス、エンゲルス、レーニン、ゲバラ、毛沢東らの力合わせで、人形が表現されるようになる。
図24（回転体）

この人形は、資本主義が世界の最終的なモデルとして受け入れられた機会に、すでに過去のものとし
て葬り去られてしまったマルクス主義の歴史を掘り起こすというう人も、「今ここ」で、マルクスの姿をした人形に命が宿
る、社会主義の歴史のトラウマに対する治療的な空間が現出す
る。

日本のアート・フォルムの際には、美術、美術の作りに注目した「元の形」が、原初的な形で、円筒、円錐型を変形した、卵
型、カノンボス、フォルミア型などといった陶芸で用いられるような基本的な回転体

（solid of revolution）の組み合わせで構成さ
れており、それに単純な幾何学の組み合わ
せによる髪の毛・髪・衣服などが付け加えられ
ている。たとえば、スミスの造形には胎
円と曲線や渦巻き型を組み合わせて優美さ
が強調され、それに対して、マルクスの造形に
は、台形の中心部の多用には弁証法的で構成
の両方を完全に避けることはできない」というのが、この人形

二〇五〇年には、ミネアポリスのウォーカー・アート・セン
ターで元の人形劇団との協力で、それぞれ五十分の短編ビデ
オシリーズが制作された。その内容は、人形で演じられるアダム・スミ
スとカール・マルクスの対話（というより夫婦漫才に近い）が
主に美術館の中で繰り広げられるというものである。二人は、
アンドリ・ウォーホル・ブロックのジャッキー・アンディ・ウォーホルの前で新価値論を語る、図25、カフェでクッ
キーをつかみながら転生論について議論し、ミュージアム・ショッ
プではエコ・フレンドリー・フーズの欺瞞を告発し、さらには、
主革命（アラブの春）の余波が欧米にも広がり、新自由主義的パラレルを有する左翼の要論を反対する占拠運動が全国的に行われ、さらにはルンドンで暴動が起こっていた。《ベイビー・マルクス》はマルクス主義の歴史だけでなく、現実の運動を異化（アパリティー）する作用がある。

この展示が行われた二〇一二年八月には、前年の中東での民社の労働管理法を生み出したティラーなどとの共謀を企ててマルクス主義を再解釈を行っている人をメキルが使うことは適切であると述べ、その理由を三つ挙げている。まず、人形は犠牲者だという伝統的な左翼の考え方がある。われわれの背後で支配的な考えや言説が働いている、それらに操られ、従うビデオテクニク・ライブラリーの要論を有する左翼の要論を反対する占拠運動が全国的に行われ、さらにはルンドンで暴動が起こっていた。《ベイビー・マルクス》はマルクス主義の歴史だけでなく、現実の運動を異化（アパリティー）する作用がある。

この展示が行われた二〇一二年八月には、前年の中東での民社の労働管理法を生み出したティラーなどとの共謀を企ててマルクス主義を再解釈を行っている人をメキルが使うことは適切であると述べ、その理由を三つ挙げている。まず、人形は犠牲者だという伝統的な左翼の考え方がある。われわれの背後で支配的な考えや言説が働いている、それらに操られ、従うビデオテクニク・ライブラリーの要論を有する左翼の要論を反対する占拠運動が全国的に行われ、さらにはルンドンで暴動が起こっていた。《ベイビー・マルクス》はマルクス主義の歴史だけでなく、現実の運動を異化（アパリティー）する作用がある。
ニューメン、少年少女の視点を通じて新しいソ連の日常のビオメカニック、少年少女の視点を通じて新しいソ連の日常がとんど読まれてこなかったことを説明したうえで、アメリカのアデミーの現場ではどうなのかという質問をも対談者の二人に投げかけています。バーラントは、スミスの自律的な情動を介した共同体という考え、アメリカでは好まれており、皮肉なことにも経済原則の立場となっており、それに対して、マックス主義に関わった知識人は大学から解雇されたことを語る。

英文学がマックス主義の強さになっていている、『ハート』と呼ばれる知性がある。旧国ではそんなことはなかったのである。ハートは状況を変えてきていることを皮肉に語っているようにも思える。

こうした観点から、ウォール街占拠運動を背景とした七分ほどの短編に触れておきたい。あらゆる以下である。ウォール街占拠運動の代表者を自認する知識人マックスは社会主義の復活の兆しに興奮し、破壊したという陰謀家のアダム、スミスにその思いを熱く語る。スミスは社会主義に住んでおり、ソ連の崩壊についての言葉が恐れるが、マックスはなぜアメリカでは社会主義という言葉が恐れるのか人々に尋ねてみる。マッカーサームズ（赤狩り）の影響が、占拠運動はマックスの理念と関係ないというのがそ
善を理由に寄付金を集め、占拠された銀行を設立する（図26）。スミスはマルクスに勘定の重要性を述べながら投資によって活動資金を増大させるのを計る。彼は、マルクスには分業としてマイナスを執筆し印刷するよう提言する。気を良くして宣言書を書いたマルクスは、スミスにその一節を意気揚々をはじめ、共産党宣言のベストセラーを夢見て、人々との対話を持ち続ける。そこである日、銀行に戻ってみると、スミスは寄付金を集めた貯金箱をもって金色のバケツで空を飛んだ。

彼らは無実の人々を守るため、革命や経済が混然に乗り、破壊した振りを彼方に消え去ってしまったのだ（図27）。この小説では、革命や経済が混然に乗じて、破壊した振りをした資本家たちが、新しい社会のための支援金という名目で、善意の寄付金を集め、かすめていく様が簡単に描かれていない。

この小説では、革命や経済が混然に乗じて、破壊した振りをした資本家たちが、新しい社会のための支援金という名目で、善意の寄付金を集め、かすめていく様が簡単に描かれていない。
つまり国家の経済危機や債務超過に乗じた国策化と中央集権のプロセスが中小企業の統廃合を通じて国策経済の策定を企図し、民主化の推進を図る。新自由主義的な政治経済政策の導入後に流山しての成長を示すという不能を説明する経済学者ヨハン・アリゲフが専門家によっ
ては論理の余地が多いかもしれないが、いずれにせよ、リベラル・ヒストリーのための想像力を強調する点でこう想像してみよう。スミスを空へと運ぶ金のバール

4 〈銃をシャベルへ〉
武器解除のためのアート・メディエーション

レゲスが一貫して取り組んできた、精神と身体空間の形態や構造のギャップを、グラノープ経済に関する教育学や療養の場という概念を、芸術による想像力としてだけでなく、具体的で喚起の問題の解決策として実践する試みが、銃をシャペルへ（図29）と題されたプロジェクトである。このプロジェクトは、メキシコ市西部クリアカンが舞台となった。ここで、武器の寄付キャ

図28 〈銀の雲〉1966年、レオ・カンパステリ画廊で展示、金属加工をしたポリエステル・フィルムにヘリウム
ネペンは、数年間にわたり銃を回収し、リサイクルした銃の素材を再利用して造られた新銃を製造し、鉄骨を再利用することにより環境にやさしい製造方法を実現しました。また、リサイクル銃の製造に伴うコミュニティでの新しい経済活動を支援するために、アートプロジェクトが実施されています。

図29 《銃をシャベルへ》2008年-, 收集した銃をシャベルに溶かし、シャベルを製造。鉄骨、クリアカン植物図

図30 シャベルと植木

図31 《武装解除》2013年, 寄付された武器から楽器を製作。リッソン・ギャラリー, ロンドン

写真に写っているのは、銃をシャベルに溶かすための装置です。シャベルは、銃の素材を再利用するための重要な役割を果たしています。
アメリカとメキシコの国境をめぐる問題は、建築家デイ・クルーズやフェルナン・ロメロなどレイエスの長年にわたる取り組みと、合衆国への住民が急激に拡大するようになってきた。また、大規模な農業による安価な食品が増えると、労働者の食料水準は上昇せず、メキシコから合衆国への移動が活発化する。また、排気ガスや工場の汚染が増え、へルドスの温床となっている。医療用の放射能物質の輸送をめぐる紛争に関する犯罪事件が増加している。
図32 《イラクのためのアイデア》2008年、手作りの家具、ブレンドグラス、ゲームの飼、シンポジウム

では、従来の商業構内のアートプログラムではないアートを通じたインタフェースの発見は、社会的動揺が広がる中で、アートを通じた市民の議論や社会変革の媒介となる役割が求められている。

図33 オイヴィント・ファーラシュトレーム《庭園の世界モデル》1973年、ビニールにアクリルとインク、16の花瓶、木、立体物、シャロン・エイヴリー・ファーラシュトレーム・コレクション

オイヴィント・ファーラシュトレームが、1973年に制作した《庭園の世界モデル》は、世界の資本の流れと政治経済の現状を模倣したオイヴィント・ファーラシュトレームの業績を表すモデル。
図34《市民の革新のための地図帳》，2009年，出版
物，可動式展示，ウェブサイト，集団活動

動を大学に見立てた《ユーテリア・ビエンナーレ》，あるいは、さまざまな日常的な
集団作業を一覧できる《市民の革新のための地図帳》(図34)といった作品で、理想的な社会像の全体を提示しているが、むしろ彼は既に行われている日々の活動や行為そのものの意義を

認めながら、異なる場所で活動するエジェント同士が媒介されるための新しい日常的な

場所（ユーテリア）に対する、複数の場（トビアス）である。
...


The Contemporary U.S.-Mexico Border /TypeOne8/der and It's Future

Serpentine Gallery, Oct. 16, 2010

http://vimeo.com/25452696

Mappamundi, artet

Oyvind Fahlstrom: Another Space for Painting,

chitectural

Map as Art: Contemporary Artists Explore Cartography,

Baltic, Oyvind Fahlstrom: Another Space for Painting,

Princeton Architectural Press, 2010; Guillaume Monsaingeon,

Practicing Narrative Mediation: Loosening


Oyvind Fahlstrom: Another Space for Painting,

chitectural

Map as Art: Contemporary Artists Explore Cartography,

Baltic, Oyvind Fahlstrom: Another Space for Painting,

Princeton Architectural Press, 2010; Guillaume Monsaingeon,

Practicing Narrative Mediation: Loosening


Oyvind Fahlstrom: Another Space for Painting,

chitectural

Map as Art: Contemporary Artists Explore Cartography,

Baltic, Oyvind Fahlstrom: Another Space for Painting,

Princeton Architectural Press, 2010; Guillaume Monsaingeon,